

## 国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価結果について

令和5年1月26日  
国立大学法人福岡教育大学  
学長選考・監察会議

国立大学法人福岡教育大学学長選考・監察会議（以下、「本会議」という。）は、「国立大学法人福岡教育大学学長選考等規程」第13条及び「国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価に関する細則」第5条並びに「国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価の実施に関する申合せ」に基づき、下記のとおり、令和3年度の国立大学法人福岡教育大学学長の業績評価を実施し、その結果を公表します。

### 記

- 1 学長氏名 飯田 慎 司
- 2 評価対象期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日
- 3 評価結果 概ね良好な成果を収めたと評価する。

〔総 評〕 福岡教育大学は、その最も重要な使命である教員養成について、令和3年度も、多くの卒業生・修了生を教員として送り出し、教員就職者数・教員就職率ともに、全国トップクラスの成果を出すことができた。これは、コロナ禍が続く中であって、就任2年目となる飯田慎司学長のリーダーシップの下で実行されたさまざまな施策が機能したことによって、このような成果につながったと思料される

その他、施設・環境の整備、監事機能の強化、教員の養成・研修等に関する研究プロジェクト、附属学校における教育研究活動の推進、九州教員研修支援ネットワークの取組やホームページのリニューアル等、厳しい財政事情にありながらも、学長は各事業を堅実にマネジメントしてきた。

第4期中期目標期間を迎えるにあたって、18歳人口の減少等我が国の学校教育を巡る大きな変化の中で、本学が常に社会から求められる大学であるために、基本理念・基本目標を改正した。そして、年度計画及び年度評価の廃止という国立大学法人法改正の趣旨を踏まえ、学長の主導による学内構成員との意見交換を経て、第4期中期計画を作成した。また、第4期中期目標期間において計画的に業務を遂行するためのスキームとして、期間中のフェーズ毎（2年）に自己点検・評価を実施することや中期目標・中期計画の取組を補完する事業等を遂行するための事業行動計画（アクションプラン）を策定することとした。さらに、令和5年度からの新たな学士課程構築などのために教員組織改革を実行するとともに、各種委員会等組織の在り方を見直す等の取組を行っていることから、学長が中長期・大局的な観点を持ち、諸施策を実行していることがうかがわれる。

以上をふまえ、本会議は、飯田慎司学長の令和3年度の業績について、第3期中期目標期間の最終年度の業務を着実に遂行するとともに、第4期中期目標期間に向けた準備・改革を適切に実行しているものとして、概ね良好な成果を収めたと評価する。

〔その他の意見〕

- ・学長のビジョンや考えをより一層、広く深く教職員に浸透させ、本学の持続的な発展に資する取組の推進に努めていただくことを期待したい。
- ・教員不足が社会問題化する中で、入学生の多くを教員に育てていることには大きな意義があり、今後も養成段階の教育の更なる充実を期待したい。
- ・理系分野の教員養成、特に初等教育教員養成において、理系人材の育成が図られることを期待したい。
- ・卒業生・修了生の就職後の状況に関するデータを収集・分析を行い、養成や研修等の改善・充実に役立てることを期待したい。

4 確認状況 以下の内容毎に、業務執行の状況について確認した。

(1) 中長期的なビジョンを持ち、必要な取組みを企画・立案し、確実に実行しているか。

第3期中期目標・中期計画に係る取組、第4期中期目標・中期計画の策定に向けた準備、本学の機能強化に資する予算配分、施設整備等について確認した。

(2) 教員養成系単科大学として、九州で唯一広域拠点大学に選定されている特色を生かし、国、教育委員会や連携協力校等と円滑な関係を構築し、幅広い視野を持って教育研究及び社会連携事業を推進しているか。

九州教員研修支援ネットワークの事業推進、BP（いじめ防止支援）プロジェクト、教育総合研究所におけるプロジェクト、他大学との教員養成に関する連携協定の締結や附属学校における先導的な教育研究活動の推進等について確認した。

(3) 本学の教育研究成果及び地域貢献について広く社会に発信しているか。

大学のホームページのリニューアル、デジタルサイネージの活用、九州教員研修支援ネットワークの取組やいじめ防止プロジェクトの取組等にて確認した。

(4) 地方創生に繋がる取組みを推進しているか。

むなかた大学のまち協議会への参画、附属小倉中学校におけるSDGsに関する取組やボランティア活動推進等の実施について確認した。

(5) 教育研究力の向上に資するため、必要に応じて業績評価を見直しているか。

大学教員活動評価の実施、顕著な業績があった教員を表彰し、研究費の予算措置等を実施したことを確認した。

(6) 新たな国立大学法人の評価、資源配分の抜本的改革に対応するとともに、大学経営力を強化し、必要な改革を推進しているか。

大学機関別認証評価の受審、第4期中期目標期間における中期計画・年度計画・アクションプランの策定、教員組織等の改革、会計マネジメント改革等を実施したことを確認した。

(7) 学生が教員として夢と希望を持ち社会に羽ばたくことのできる魅力ある大学づくりをめざし、全国トップクラスの教員養成系大学としてブランドを構築しているか。

教員就職への支援、独自奨学金の授与やボランティア活動の推進に取り組んだことを確認した。

(8) 時代の変化に即応した新しい教職員の人事評価制度を再構築しているか。

年俸制適用対象者の増加や、評価指標の見直しについて確認した。

## 5 経過

- ・令和4年6月8日 学長選考・監察会議（第1回）開催  
学長業績評価のスケジュールを審議
- ・令和4年9月28日 学長選考・監察会議（第2回）開催  
学長の業績評価に係るプレゼンテーションの実施項目を審議
- ・令和4年12月7日 学長選考・監察会議（第3回）開催  
学長によるプレゼンテーションの実施・質疑応答、学長の業績評価に関する審議
- ・令和5年1月26日 学長選考・監察会議（第4回）開催  
学長の業績評価に関する審議